（別記様式第１２号）（第３の８関係）

（北アルプス地域）

令和７年度　地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	雨飾高原キャンプ場開業 30 周年事業
事業主体 （連絡先）	一般社団法人 GreenProject （長野県北安曇郡小谷村大字千国乙 6777-5）
事業区分	(6)産業振興、雇用拡大（ア 特色ある観光地づくり）
事業タイプ	ソフト
総事業費	960,410 円（うち支援金：　768,000 円）

事 業 内 容

雨飾高原キャンプ場は平成 8 年に開業し、令和 8 年に 30 周年を迎えるが、地域の人の利用・運営参画が減っている課題がある。当該施設が地域外の人だけでなく、地域内の方も含めた交流拠点となるための以下の事業を実施した。
①地域伝統文化をコンテンツ化し、地域の人が講師となり、地域外の人たちに体験を提供する仕組みをつくり、地域の稼ぐ力の向上を目指した。
②当事業を通じ、アウトドア＋地域文化体験を確立させ、他エリアとの差別化を図り、新しい関係人口創出に繋げた。
③第三に未来を見据え、防災知識および自然環境保護の啓蒙活動をおこなった。



**【地域の方が講師になり
おやき作りをしている様子】**

【目標・ねらい】

① 地域伝統文化をコンテンツ化
② 地域の稼ぐ力の向上
③ 他エリアとの差別化
④ 防災知識および自然環境保護の啓蒙活動

事 業 効 果

① 地域の人が講師となり、郷土料理づくりや蕎麦打ち体験するコンテンツを有料販売することができた。開催数 27 回：地域食体験 3 回、蕎麦打ち体験 12 回、木工体験 12 回。コンテンツ参加数は、169 名（106 組）であった。
② 参加割合（参加組数/総宿泊組数）16.3%、（参加者数/総利用者数）10.1%
③ 信州プラスチックスマート運動に協力事業者となり、防災および環境保護の啓蒙活動を積極的に進められた。

※自己評価【A】

【理由】
・新しいコンテンツを造成し、地域の稼ぐ力の向上の一歩目を踏み出せた。
・キャンプ場宿泊者の約 10%が参加したこと。

今後の取り組み

・令和 8 年度に雨飾高原キャンプ場の 30 周年祭を開催する予定。アウトドアとしてのキャンプだけでなく、地域と交流することを前面に押し出し、当キャンプ場のブランディングをしていく。
・今年度実施したコンテンツをブラッシュアップする。体験価値の向上を目的に、クオリティ、体験時間、参加費、開催頻度などを改善していく。
・今年度は「クマ出没」に関する問い合わせやキャンセル数が多く発生した。行政と連携し、安心安全な環境整備が求められる。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。
「A」：予定を上回る効果が得られた　「B」：予定していた効果が得られた
「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある